

Eテレマニア



DEEP ACID
2022/02/06

目次

- 【1】 Eテレとは
- 【2】 Eテレの面白さ
- 【3】 Eテレの中のパペット
- 【4】 Eテレのオススメ番組
- 【5】 最後に・Eテレの光と影

【1】 Eテレとは(1)

- 地上波唯一の専門チャンネル

普通の地上波はニュース以外は推しタレントの出てる番組以外見る気がしない。YouTubeの流しっぱなしはものすごく内容が偏ってしまい、飽きてしまう。

【1】Eテレとは(2)

- 視聴率の関係ない番組作り

ネットは地上波で見れない個性的な番組はあるが、制作陣がしっかりしているわけではないので長続きしないし、さらにネットは炎上で潰される。視聴率を気にせずに作られるEテレは本当の意味で自由なコンテンツだと確信している。Eテレの過去の名作はたいてい今見ても素晴らしい。

【1】Eテレとは(3)

■番組カテゴリ

- 幼児向け番組（おかあさんといっしょなど）
- 中高生向け番組（沼にハマってきいてみたなど）
- 障害者向け番組（今日の手話など）
- 主婦向け番組（きょうの料理など）
- 習い事番組（外国語、将棋など）
- 先進的社会課題取組番組（SDGs関連番組、ねほりんはほりんなど）
- オルタナエンタメ（2355など）

→カテゴリ分けで既に総合や民放と全く違う

【2】 Eテレの面白さ(1)

- 音楽番組としての卓越性

名の知れたアーティストが出演するものだけが音楽番組ではない。ミュージカル的に物語自体が音楽で語られる。ヒット曲ではなく、クラシックや隠れた名曲がふんだんに使われ、下手にインターネットをググるよりも、新しい音楽を見つけたければEテレだ。星野源も子ども時代にEテレをよく見ていたから?あの幅広い音楽性が完成したようだ。



【2】Eテレの面白さ(2)

- 人気子役から次のアイドルを探し出せ

おかあさんといっしょレベルだとさすがに子どものキャラクターは分からないが、天才てれびくんレベルになると、子役でも将来芽が出るかどうか分かる、光る原石が見つけれられる。Eテレで第2のまいんちゃんを発見すべし。

(頭のいい子が揃っているのも、大人になったらタレントではなく学者になったりする子も。教養番組の先生同様、大学でテレビ出演していた先生につくと、モチベーションも上がる)



【3】 Eテレの中のパペット



【3】 Eテレの中のパペット(1)

- アニメと並ぶもう1つの和製キッズエンタメサブカルチャー

「ひょっこりひょうたん島」の時代から現在のニャンちゅうやコレナンデ商会に至るまで、Eテレのキッズ番組で重要な役割を果たしている。

映像に実在の人間を使わない点ではアニメと共通するが、アニメが映像の時代(ディズニーがその原点)から始まったものであるのに対し、パペットは人形浄瑠璃の江戸時代まで遡る。

実際にはイギリスのサンダーバードなど海外でパペット作品が逆輸入されている感もあるが(現在でも「きかんしゃトーマス」のような輸入作品が日本でも親しまれている)、歴史的には日本が誇る和製キッズエンタメサブカルチャーと考えて良い。

当初は登場人物をキャラクター化するのに、原画を大量に書かなければならないアニメに比べてコストを抑えるためのパペットだったが、現在ではアニメ側もデジタル化でコストダウンが測られ、パペットはアニメとは異なるキャラクター表現として自立している。

【3】Eテレの中のパペット(2)

- 「テレビ」と言うハコにうまくハマったフォーマット

アニメがテレビフォーマットにハマるようになったのは、ゲゲゲの鬼太郎辺りが最初だと言われている。当初は原画を大量に必要としたので、なかなかテレビフォーマットには乗らなかった。昭和の時代にはより多くのパペット番組が作られていた。なので、パペットはアニメ全盛の現代からすると、昭和の香りが漂う。かつ、テレビでも動画でもアニメコンテンツが観られる時代に、パペットはEテレと言うテレビフォーマットを今もなお支え、アニメとは違う独特なサブカルチャーにおけるポジションを得ている。

【3】Eテレの中のパペット(3)

- 大人向けのパペット番組が実験的で面白い

代表はなんと言っても「ねほりんはほりん」。匿名の一般人にインタビューする中で、パペットで登場してもらうことで形(フィギュア)を与える、という発想はかなり革命的。SNSがテレビ人と一般人の境目を弱化したように、テレビフォーマット上でもパペットがテレビ人と一般人の境目を弱化させるのに成功している。

【3】 Eテレの中のパペット



【4】 Eテレのオススメ番組(1)



- ムジカ・ピッコリーノ

クラシック、ポップス、ロックなどジャンルを問わずこの世の名曲を楽理的に分析、それも子どもでも分かる語り方。子ども時代に聞く音楽は人生を決定すると言っても過言ではない。子どもに見せたい番組No.1。

【4】Eテレのおすすめ番組(2)

- 沼にハマってきいてみた



普通に「今、高校生に流行っているもの」を紹介する番組のフリをして、強烈な変態的個性を持った若者が登場するのがめちゃくちゃ楽しい。スポーツにしても聞いたことのないような種目にハマっている学生が紹介されるし、石を積み上げるとか泥団子をこねるとか、既成概念では到底夢中になれそうにないものにハマった高校生が紹介される回が最高。多様性の本当の意味を理解することができる。

【4】Eテレのおすすめ番組(2)

- 100分で名著

読みたいと思っても暇がない大人は、この番組で読書習慣の代わりにして欲しい。

哲学とはある意味、大人になってからも人生をひっくり返される事件にもなりうる。



【4】Eテレのおすすめ番組(3)

- ハルさんの休日(現在はシーズンオフ)

古カフェめぐり番組なのだが、建築美術に造詣が深い話が面白い。ブラタモリのEテレ版。

この手の番組は、「教養」というものがいかに人生の幸せにとって重要なファクターであるか、ということを教えてくれる。その意味では、大人の躰番組。



【5】最後に・Eテレの光と影

北京五輪期間、Eテレマニアとしては、Eテレらしさが消えて悲しい。

つまり、僕が好きなEテレは、他局のように視聴率左右されることなく、独自の内容で勝負する番組の宝庫であること。五輪が始まったら、これはもうNHK総合を補完するだけのチャンネルになってしまった。


まあ確かに、Eテレと言うのはNHK総合でしっかり視聴率を稼いでくれているから、自由にやれていると言う事実があり、そこから逃れられない運命。Eテレはそういう運命を背負いながらも、やはり他の局ではできないことをやって欲しい。

END

ちょっと深呼吸



フック
ブック
ロー


HOOK
BOOK
ROW